

## 中国：黒鉛電極の投資ブーム到来

2017 年以降、質の悪い鉄鋼製品である地条鋼の取締りや、中周波炉の停止、環境規制による生産制限、原材料の供給不足などにより、黒鉛電極の需給はタイト化した。関連製品の値上げのスピードの速さと値上げ幅の大きさは、いずれも市場予想を上回り、10 倍以上の上げ幅となったこともあった。巨大な利益の背景にして、黒鉛電極市場は生産能力増強と新設プロジェクトのブームを迎えている。

この中で、2018 年 4 月 18 日に、内モンゴル鷹翔炭素有限公司は、年産 2 万トン UHP 黒鉛電極と年産 1 万トンリチウム二次電池用負極材料の生産ラインの起工式を行い正式に着工した。

4 月 26 日には、宝山鋼鉄の 100% 子会社・上海宝鋼化工有限公司は、蘭州市紅古区人民政府、方大炭素新材料科技有限公司と、「年産 10 万トン UHP 黒鉛電極の生産ラインの投資・建設の枠組協議」を締結した。同協議においては、宝鋼化工が方大炭素と共同で 27 億元を投資し、2 期に分けて建設する予定が決定されている。

他分野の例では、このような新プロジェクトの投資ブームの結果、早晩生産能力過剰問題に行きあたり、特に UHP 電極の場合は、コストと品質の優位性を如何に保つか、各社の課題となると思われる。

(出典：東方財富網、ICC 他)